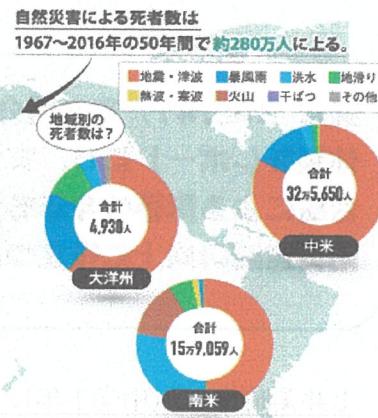


国際防災デー（10月13日）と仙台防災枠組

毎年10月13日は「国際防災デー」です。国連総会にて危機意識と防災に関するグローバル文化を推進する呼びかけに応じ、1989年に制定されました。JICAが発刊する mundi（2017年10月）に開催されたデータでは、1967～2016年の50年間に世界で約8000件の大規模な自然災害が発生したそうです。またそれらの自然災害による死者数も累計で約280万人に上ります。最も死者数の多い南アジアと東南アジアでは、地震・津波に合せて暴風雨の被害が多く、アフリカでは大規模な干ばつによる被害が多いです。災害の多い日本からは、防災に対応する専門家を海外に積極的に派遣し、また防災を学ぶ研究員を多く受け入れています。気候変動による災害リスクが高まっている今、この日に気を引き締めることも大事です。

↓↓ JICA 防災いのちと暮らしの基盤をつくるより



↑↑ Youtube ビデオ「国連仙台防災枠組：国連防災機関（UNDRR）」 2016/11/04

<https://www.youtube.com/watch?v=UeAwG5Ib5uw>

2011年3月11日におきた東日本大震災から11年と半年が経ちました。大規模な自然災害を経験した各国では、「誰ひとり取り残さない（No one left behind）」を目標に、過去の災害を契機とした取り組みを進めています。被災地のひとつである仙台市は、震災の経験と被災地の再生を世界に発信するため「国連防災世界会議」の誘致を表明しました。2015年に国連事務総長をはじめ、185カ国からこの国際会議に参加し、成果文書として「**仙台防災枠組**」が採択されました。基本となる考え方は以下のとおりです。皆さんも防災に必要なこととして議論してみてはいかがでしょうか。

- ①国は最も重要な責任を持つ。その上で、社会全体の協力、**とくに女性や若者のリーダーシップ**が重要。
- ②さまざまな角度から最新のデータや科学に基づいた意思決定が必要。
- ③防災は持続可能な開発への重要な鍵。④地域の特質や事情を考慮。
- ⑤灾害リスクを考慮して、リスク軽減のための公的・民間投資が重要。
- ⑥「Build Back Better（より良い復興）」の考え方で復旧・復興を。
- ⑦教育・啓発を通じた備えが重要。⑧国際協力が不可欠。

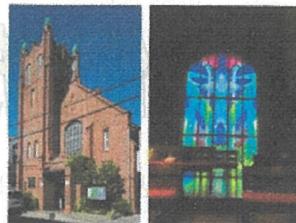
文化祭：UNESCO・YWCA部展示の紹介

UNESCO・YWCAレポート

中学1-1 土井 美晴

①川口教会

川口教会は、大阪府大阪市西区にある1926年（大正15年）に設立されたプロテスタント教会です。2階にあったステンドグラスが学校のチャペルのステンドグラスと同じくらいにきれいでました。



②津波・高潮ステーション

津波・高潮が発生したときの西大阪地域の防災拠点および津波・高潮災害に関する啓発拠点(けいはつきよとん)となる施設です。かつて大阪を襲った高潮や、近い将来必ず大阪を襲うと言われている南海トラフ巨大地震とともに、地震・津波発生時の対応などを学べる、広く開かれた施設です。(写真はマスコットキャラクターのみのすけ)



UNESCO・YWCA部 レポート



1 津波・高潮の仕組み



津波・高潮ステーション

私たちが訪れたのは大阪府にある津波・高潮ステーション!! ここでは主に高潮がどうして発生するのか、どうやって防いでいるのかを学ぶことができました。今日は、高潮と大阪の関係について知りたい方にお勧めします。

まず、台風などの低気圧が海面を吸い上げます。そうすると、海面が上昇します。それが強い風によって吹かれた水が海や川を逆流し、街へ流れ込みます。こうようにシステムを知れば津波と違いもよく分かります。

2 高潮を防ぐ堤防



大阪は海抜0メートル地帯のところがあります。その原因は昭和初期から工業用水として大量の地下水を汲み上げるために起きた地盤沈下です。海抜0メートル地帯とは地表より高さが満潮時より海面よりも低い土地のことです。この地帯は非常に高潮の被害を受けました。

しかし現在は堤防によって大阪は守られています。そして堤防だけでなく、真っ赤いアーチ型防潮門という重き530tにもなる水門で倒れることはあって、水が時々侵入しないようになっています。これにより、現在大阪は高潮による被害をまぬかれることに成功したりました。幸運なことにアーチ型防潮門は日本唯一!!

3 これから高潮

こうとうに今は防いでいる高潮ですが、地球温暖化の影響もあり、台風の威力を増していく中で高潮による波はもっと高くなり、数何後には堤防の高さを超えるかもしれませんといわれています。ならばまた堤防の高さを高くしたりといふと思うでしょう。しかし、大阪でいたるところにある堤防を高くするにも、長い時間とお金が必要で、簡単に解決できるものではありません。



この写真を見ても端的に平成でもかなり水浸に差があることが分かります。
最後に
今まで私たちがあまり気にしないなか、たかが海水位になる日は私たちの想像よりも早く来ると思います。それまでに大阪には危険があるということも、そして高潮の知識を身につける必要があります。昔から起きていた高潮の記憶からも学ぶことが多いあります。

前号（No.147）でも紹介した夏休みの見学体験をレポートにし、文化祭で掲示しました。台風による影響は今年も大きかったので防災意識の向上に役立つことを期待します。

土井美晴さん（中学1年）、上川采美さん（高校1年）、清水萌子さん（高校1年）、尾西亞佳音さん（高校2年）、山中彩葉さん（高校3年）レポートの提供ありがとうございました☺

教育実習生・金本晴華さんからのメッセージ

私は、中学1年生の頃から高校3年生までの約6年間に渡って東日本大震災被災地応援実行委員会で被災地への支援活動を行ってきました。主に行ってきた活動としては、皆さんの教室の壁にかかっている非常食と軍手などが入った非常用袋や、もし災害が起こった時に学校にいて自分が居る教室からどのように避難するのかを記載した避難経路の設置をしました。

このような活動を通して、皆さんに伝えたいのは「**被災するということは他人事ではない**」という事です。自分がいつどのような時に災害に遭うのかという事は想像出来ません。そのためにも日常から自宅からの避難経路であったり非常袋などを確認したりするようにしてほしいなという事を皆さんに伝えたいです。今後の実行委員会（UNESCO・YWCAクラブ）の皆さんの活動を応援しています。

